

菊人形・菊花展 案内図



岐阜公園菊花展には、愛菊会会員の手によって育てられた菊、7部門約3,000鉢を展示しており、特に、木付け菊の出展数については全国一を誇ります。
また、平成8年度より主に菊(20種類以上の菊、450鉢)を使用した庭園を作成し、その中で菊人形の展示も行っています。

● 山菊総合花壇

木付け、石付け及び文人等、5鉢以上の作品を組み合わせ、一つの花壇として構成したものです。これは、この地方特有の作風で、他ではほとんど見られず本菊花展の特色を表すものです。

● 大菊花

大輪菊の3本立ち12鉢もしくは、一本立ち20鉢をもって一つの花壇を構成したものです。

● 美濃菊

皇室の紋章の図案といわれる一文字菊を祖先に持つこの菊は、名前から推察されるとおり岐阜が発祥の地です。この花の特徴は花卉の表裏の色が異なるものがあり一種のそう重味と艶やかさを持っています。

● 大菊小作り

7月頃に菊の芽差しを行い、比較的短期間に育成し花を楽しむもので、一鉢一本立てとし10鉢をもって一花壇を構成します。

● 小菊盆栽

この部門は、小菊自体の特性を生かし、作品の中に幹や根を強調し、盆栽風に仕立てられたもので、数年栽培されている古木も含まれます。

● 小菊盆養

この部門は、全国的にも珍しいこの地方特有の作風で、古木を主体にして小菊を育成したもので、あたかも樹齢数拾年を経て現在に咲き誇っている感をかもし出しています。

● 自由花

この部門は、作者が自由な発想に基づいて育成した菊花作品を展示したもので、出展にあたっては大菊、新花、古花等、規定はありません。

自由花の部



大菊・千輪仕立て



信長と濃姫



会場入口



会場入口



会場の様子



平成23年度菊人形テーマ 『信長とゆかりの姫 浅井三姉妹』

喰うか食われるか、弱肉強食、昨日の敵は今日の友、昨日の友は今日の敵、明日のことは明日の雲次第、正は悪となり悪が正となる、誠に混沌として社会秩序は元より、倫理・道徳など顧みる者も無く、社会規範等有って無きが如き戦国動乱の百年を鎮め、その後260年余りにもわたる平和な世を招来させたのは誰であろうか？信長か秀吉か家康か？

いやいやさにあらず

確かに男系家系の観点で云うと、武力で天下を獲った家康とその子党であろうが、誠に天下静謐をもたらしたのは信長の妹『お市』とその娘『江』であつたと云えよう。

江は湖北の雄浅井長政の三女としてこの世に生を受け、数奇な運命にもてあそばされたものの、徳川二代將軍秀忠の正室として、また、三代將軍家光の生母として、創業者である家康の後を受けて守勢の美を全うした。誠に末永く守りを固めようとするのは女性特有の細かい心配りではなかろうか。

これはひとえに三つ子の魂百までと云われるように、その幼少期に戦国動乱の世の、地獄もかくやと思われるほど無残な様を身を以て味わい尽くしたお江ならではのことと感ずるのは僻目ではあるまい。

このような観点から見ると、將軍家御台所として家政に取り組み子弟を育んだお江の働きこそが徳川の天下を260年余りにわたり平穩理に存続させた第一の功と云えるのではなかろうか。

山菊総合花壇の部



大菊花壇の部



美濃菊の部



大菊小作り(福助花壇)の部



小菊盆栽の部



小菊盆養の部



菊の博学

- ・キク科キク属に含まれる宿根草で、学名をクリサンセマム・モリフォリウム (Chrysanthemum morifolium) といいます。日照時間の長い時期に成長して、日照時間が短く(13時間以下)になるとつぼみをつけ開花する短日性植物です。
- ・早咲きは開花期が11/3前後、中咲きは開花期が11/7前後、遅咲きは開花期が11/10前後です。

菊の歴史

- ・菊の原産地は中国で3,000年以上の歴史があり、日本へは奈良時代中期に遣唐使などによって、薬用植物(解熱、頭痛、めまい、長寿など)として入ってきたと言われています。
- ・平安時代には、9月9日の重陽の宴で花を觀賞し、赤白黄の綿を花にかけて菊酒を飲み、その綿で身体をめぐら「着せ綿の行事」が行われていました。(老いを防ぐ効果がある。)
- ・一般庶民に菊栽培が広がったのは、江戸時代中期の1710年代(正徳～享保)に花径18cm以上の大菊の新花を競う「菊合わせ」が盛んになった頃からです。入賞すると新花の苗1本が3両にもなったため、一攫千金と名誉をかけて一般愛好家が交配実生に熱中し、次々と優れた品種が誕生しました。また、この時代に地域独特の古典菊も誕生し、江戸の植木屋が菊で富士山や名所の風景、菊人形などを作りはじめ、現在の菊作りの型がほとんど揃ったと言われています。
- ・明治20年代には、各地に菊花会ができ、大菊三本仕立て(盆養)が流行し、その華を競い始めました。懸崖や盆栽は大正初めに流行し、以後広く作られるようになりました。
- ・日本で大きく発展した菊は、明治以降、世界各地に運ばれ、品種改良がなされました。オランダではスプレー菊、アメリカでは鉢花用のポットマムが発達しました。

菊の種類

- ・大菊(和菊): 花の直径が18cm以上で、花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分かれます。「厚物」は、更に「厚物」、「厚走り」、「大掴み」に分かれ、「管物」は、管の大きさで「太管」、「間管」、「細管」、「針管」に分かれます。また、「広物」は一重咲きの「一文字」と八重咲きの「美濃菊」があります。
- ・古典菊(和菊): 江戸中期に各地の殿様の保護奨励によって地域独特の発展を遂げた菊の総称で、昔の地名で呼ばれています。その種類には、嵯峨菊、伊勢菊(松坂菊)、肥後菊、江戸菊、美濃菊、奥州菊などがあります。
- ・小菊(和菊): 花の直径が9cm未満で山菊と呼ばれることもありますが、懸崖仕立てや盆栽用に育成された小輪の菊です。花色、花型、生育の特徴など極めて多彩で、種類が豊富です。
- ・洋菊類: 洋菊とは、欧米に渡った日本の菊がそれぞれの国の好みによって改良されたものの総称であり、クッションマム、ポットマム、スプレー菊などがあります。

菊の仕立て方

- ・大菊: 三本仕立て、一本仕立て、七本仕立て、千輪作り、競技用切花、ダルマ作り、福助作りなど
- ・古典菊: ほうき作り、七五三作り、天地人作り、篠作り、肥後菊花壇など
- ・小菊: 懸崖作り、杉作り、造形、ポットマム、クッションマム、盆栽作り、直幹仕立て、双幹仕立て、岩付け・木付け盆栽、盆栽懸崖、柳仕立て、筏吹き・根つながり、寄せ植え、木付けなど
- ・その他: 弥彦作り、菊人形、総合花壇など

お問い合わせ先

| | |
|--|---|
| 岐阜市都市建設部公園整備課 | 岐阜公園管理事務所 |
| 〒500-8701 岐阜市今沢町18番地 | 〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地 |
| TEL: (058) 265-4141(代) FAX: (058) 262-0512 | TEL: (058) 262-3951 FAX: (058) 262-3951 |
| e-mail kouen@city.gifu.gifu.jp | |

第40回記念 岐阜公園菊人形・菊花展

菊作りの名人たちが育てた大菊、小菊、美濃菊、そして菊人形など3,000鉢余りの作品を展示するほか、華やかな菊庭園が出現します。菊の香が漂う岐阜公園に、ちょうど秋の深まりが訪れるのです。



菊人形 左から織田信長、茶々、江、初



菊庭園

平成23年度菊人形テーマ

『信長とゆかりの姫 浅井三姉妹』

開催期間 : 平成23年10月22日(土)～11月23日(水・祝)

AM9:00～PM5:00 (※会期中無休、無料)

開催場所 : 岐阜公園(岐阜市大宮町1丁目)

駐車場 : 普通車 195台(一回300円)

バス 9台(一回1,000円)

アクセス : JR岐阜駅または名鉄岐阜駅からバス15分

「岐阜公園歴史博物館前」下車徒歩2分



主催 : 岐阜市

共催 : 岐阜公園愛菊会、岐阜市緑化推進研究会